

地区広報

かいぞう

海蔵川物語 Part II

—その自然をさぐる—

『海蔵川をさぐる』に
さんかして、水の中の生き
物によって水のきれいさ
がわかることを初めて
知りました。

生き物がいっぱい
住めて、遊べるよう
な海蔵川になってほ
しい。(小4)



『自分たちの手で、海蔵川を守る』ということ
を始めてみませんか。
それは、川のためであり、
生物のためでもあり、
そして、私たちのため
もあるのです。

(中2)

です。

海蔵川が、私たち人間
と毎日楽しく生きていけ
る川であるためには、ま
ず私たちが、海蔵川をき
れいにしてあげることだ
と思います。

「どんなに人間に汚されても生きつづけよ
うと、川は生物とともに変化してきま
した。それでもまだ汚そうとするの
ですか。」

今回の『海蔵川をさぐる』に参加して、私は
汚れた川にもちゃんと『尊い命』が生きてい
ることを知りうれしく思いました。

きれいな水はどこへ行ってしまったのでしょうか。
汚れた水はどこへ行ってしまったのでしょうか。

はいなくなってしまうのでしょうか。海蔵川のき
れいな水はどこへ行ってしまったのでしょうか。

「と嘆いています。やっぱり、きれいな水に住む魚
はなくなってしまったのでしょうか。海蔵川のき
れいな水はどこへ行ってしまったのでしょうか。」

私たちの海蔵川は「安心して鳥たちが住めて、子供たちが泳げるくらい青く澄ん
でいる川であってほしい」これが私の理想です。でもそれは、夢のまた夢。実際は
生活排水が毎日毎日流れ込み、海蔵川は「苦しいよう、息ができない
よう。」と嘆いています。やっぱり、きれいな水に住む魚
はいなくなってしまうのでしょうか。海蔵川のき
れいな水はどこへ行ってしまったのでしょうか。

川は生きている

耳をすまして.....

海蔵川をつぶやきを!

前回の地区広報では、海蔵川の地形、名前の生い立ちなどの特集をしました。さて、川の中はどのようなようになっていのでしょうか。

今回は川の中、川のまわりを観察し、そこに生息する生き物や植物を調べる『海蔵川をさぐる』を実施しました。

将来を担う子どもたちに呼びかけ、川に慣れ親しんでもらい、自らの目と手足で川の環境を調査しました。

以前の川は夏になれば日焼けした多くの河童たちで賑わい、自然の観察、体験の場としてわれわれに、はかりしれない多くの材料を提供してくれました。

海蔵川は、平常時地表を流れる水量は少ないが、

沖積砂礫層中を流れる水量は多く、上水道の

水源用の井戸が数多く設けられ、流域の下

海老町には、湧水、通水型の全長百mの

よこマンボや、赤坂温泉、坂部温泉な

ど川に面している段丘崖下の低地に

温泉が湧出している。

河口部近くには、かんがい用の

水門(通称ゲート)が設置さ

れており、四月上旬から八

月下旬にかけて増水時以

外閉鎖され、清水町付

近までダム状となる。

(四日市市史より抜粋)

マンボ＝砂礫層中に長い横穴を掘

り、その横穴の周壁から

しみ出す地下水を、滯水

層の傾斜に沿って下流へ

流し、集水する施設。

海蔵川をウオッチング
食用カエルのオタマジャクシ
ザリガニ、群れをなすオイカワ
石にくっついていいるイシヒル
藻がたくさん流れている
猛暑、水はなまぬるい
澄んだ水とは言えない
みんなて、この川を
知って、守って、親しんで、
.....
川は変わる

いざ!! ウオッチング



海蔵川には、魚はあんまりないと思っていたのに、オイカワやオタマジャクシなどが、たくさんいて、びっくりしました。(小3)

8月19日四日市大学短期大学部の村井俊郎教授を講師に四日市市環境保全課職員の方の指導で、応募者30名の小学生と十数名の父兄と共に新設されたばかりの『しらさぎばし』の付近から探索した。

はじめに、村井先生より『川は排水、ゴミを捨てる場所ではない。みんなの憩いの場所でなければならない。そのためには川に慣れ、親しみ、川を知り、川をみんなで守る気持ちが大切である』などと聞き、実際に川に入り水生生物の種類から、川の汚染度を判定した。

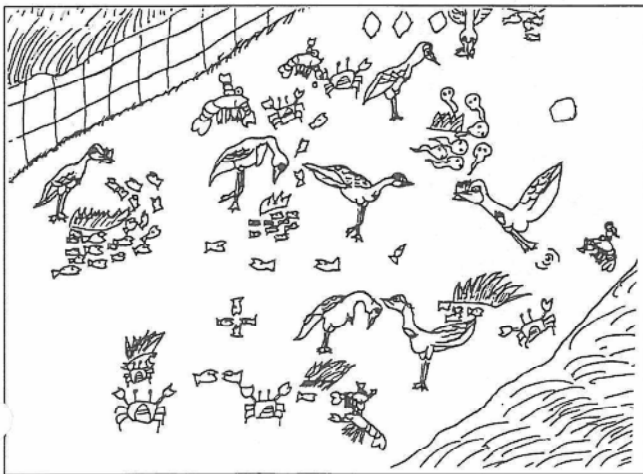
○わたしは海蔵川で、はじめて魚をおいかけたりしました。

水の中はもが生えていて少しきたなかったけどシラサギやウなどがエサをとりにきていました。(小4)

○ぼくは魚つかみは大好きで海蔵川にもカニ、ザリガニ、小魚がいっぱいてとても楽しかった。先生の話はちょっとむずかしかったけど川を大切にしようと思った。(小3)

八月の暑い中、たくさんの方々、『海蔵川をさぐる』に参加されたことを、たいへんうれしく思います。

川に入ったことで、私たちがくらしの中でできることがわかったのではないのでしょうか。環境保全課としても、精一杯の努力は続けます。しかし、みなさんの力がどうしても必要です。皆が力をあわせ、より良い環境をつくっていきましょう。(環境保全課)



～私たちのふる里は、私たちでまもる～

ぼくが
私が

見た！ 探った！ 海蔵川

▲ある日の新聞で見た“人工的に自然の川復活”という活字。今、人と生物が共存する自然の大切さが見直されている。海蔵川ももっとたくさんの魚が泳ぎ、トンボが産卵。鳥も飛来し、川辺には、ホテルが飛び交い、草花が咲く。こんな川であってほしい。そんな願いが、子供たちにも受けつがれてほしい――。

○海ぞう川をもっとかわいがって、日本一のきれいな川にしていきたいですね。(小2)

○川の中には、たくさんの生き物などがいてうれしかったです。これからもゴミを川にすてないで、しらすぎさんがとんできて、もっとりっぱな川になったらいいなと思いました。(小3)

○ぼくは、先生が言ったとおり人が水に目をむけるようになったらいいなと思います。それには川を大切にすることです。心だけではないけません。体で実行してください。(小4)

○川をきれいにして、冬のマラソン大会だけじゃなくて、夏にはキャンプをしたり、いろんなスポーツができたらいいなと思いました。(小3)

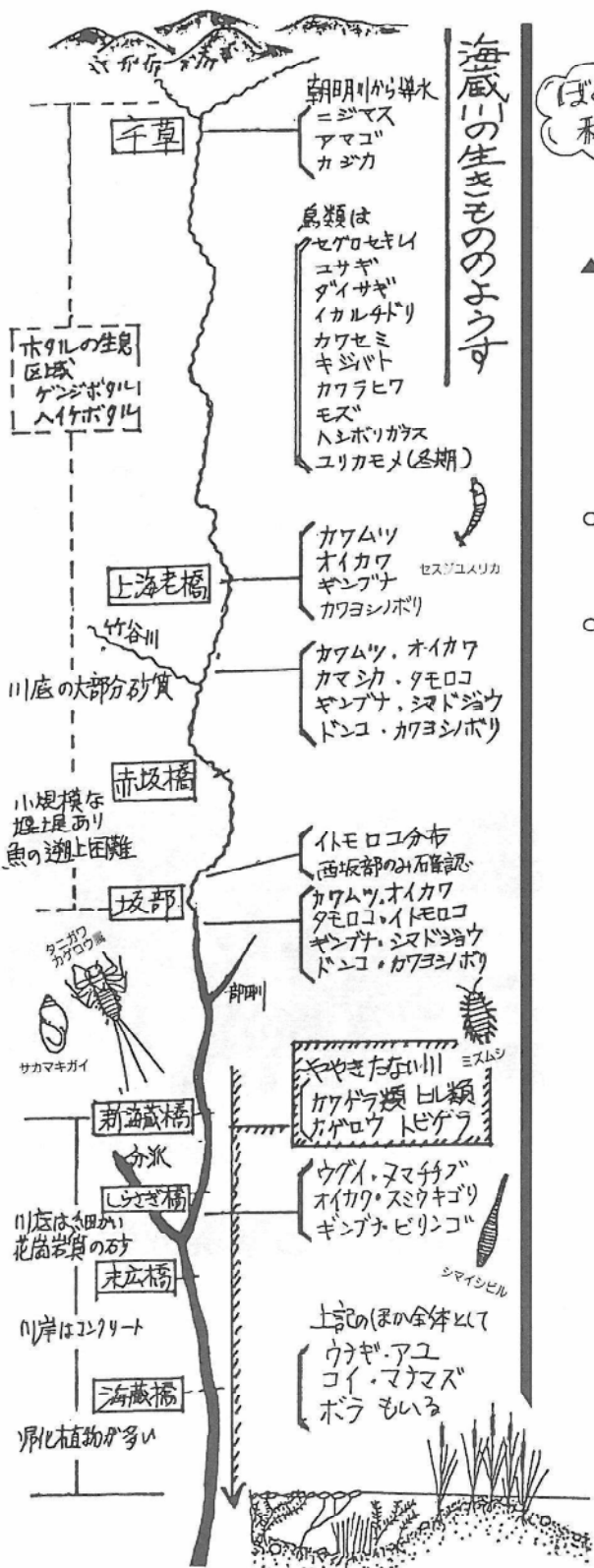
○四日市は、朝明川・海蔵川・三滝川・内部川の四つの大きな、川が流れていて、その中で、一番きかない川が海蔵川かもしれないと聞き、「一番きかないなんていやだな」と思いました。(小5)



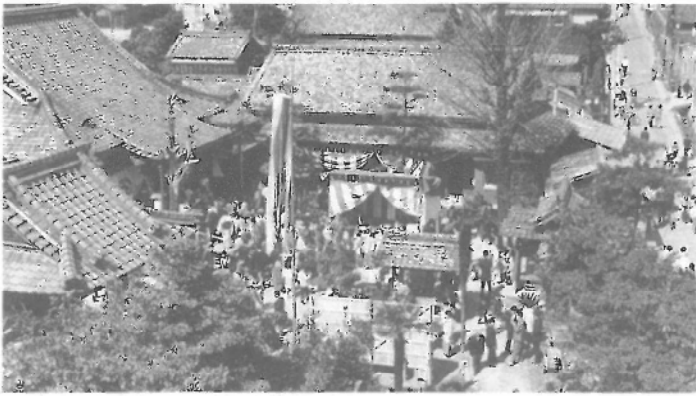
☆この川で観察した生物は、『少し汚い水に住む生物』ばかりで残念です。だれと言わずみんなが、海蔵川を愛し、川を汚さず大事にしたら、もっと昔のように、きれいな水に住む生物を増やすことができ、きれいな川を次の世代の人たちにも残してあげられると思う。(30代女性)

☆今回の環境調査では、大きく変化した環境下でも生き物たちがたくましく住み着いていることを学び、身近な自然を愛する心の大切さを地域の子供たちに教える場であったし、親の私たちからまず『海蔵川の自然を守る』意義を認識したい。(40代男性)

海蔵川の生きもののようす



自然……この預かり物
考えてみると、この地区が他に誇れる自然の財産は、イヌナシ・アイナシの自生地と共に、桜で彩られる『海蔵川』ではないでしょうか。
次世代へ引き継ぐべく、先人よりの仮の預かり物のこの川の自然を、守り育て共生を心掛けるのは、いま生きている我々の責務である。と感じた一日でもありました。



「私たちの街ではこんなことやっています」

こども獅子舞い

梅雨の谷間か、七月九日の日曜日は好天に恵まれ夏まつりにふさわしい一日であった。

朝早くから獅子をかぶりはしゃぐ声、あっちの家こっちの家と順番に獅子頭・胴・尾をかぶる子と交代して元氣よく舞っていた。あの子に「君、疲れたか」と聞いたら「疲れたけど楽しい」汗をふきながら次の家へと飛んでいった。

一回りして、育成会会長宅で昼食。公会所で祈禱を行い、末永町一区、二区、清水町そして本郷町二区、一区の順に引継いで一日を過ごした。

夜になると神社の境内には子供たちの作った角行灯五十三個に灯がともり、色々な絵が浮きでて夏まつりの情緒が一層盛り上がった。



「海蔵の寺社」シリーズその⑥

今回は東阿倉川の田端山唯福寺（真宗大谷派、ご本尊・阿弥陀如来像、住職・田端哲哉師）をご紹介します。

文政元年（一四六六年）丙戌正月二十日に南勢の武士田端十郎政元が当地に来て出家し、空正と号して天台宗より真宗本願寺に転宗され、今日に至り平成八年は、創立五百三十年を迎えます。

その間、織田信長の焼き討ちや失火にありましたが、八世住職慶

唯福寺

圓師や十一世住職、敬山師が中興の祖となり再建しました。

さらに十三世住職、教正師による海蔵庵薬只窯は四日市万古の創始で、地域社会における殖産工業の発展に貢献されるところとなりました。

他方、教正師の孫が早逝された為に、明治二十二年役僧が実権を握り、当寺はついに破滅におこまれました。

しかし、明治四十三年、十六世住職はご門徒衆と共に再興をはた

しました。ところが昭和十九年、十七世住職の戦傷死により、再び十六世住職が十八世を継ぐことになりました。

このように当寺の歴史は、創造、維持、破壊を繰り返してきましたが、いつもご門徒衆に支えられて今日に至りました。現在は、十九世住職とご門徒衆が、親鸞聖人のみ教を日常生活のわが身の上で聞き開くべく聞法学習を重ねておられます。

足元から環境改善

地球的規模から環境の悪化防止と保全が最優先問題とされていますが、こうした大きな難しい問題に、地域に住む私たちはどう対応（参加、協力のための理解）したらいいのが戸惑いのある方も多いのではないのでしょうか。

身の周りを見渡して、私たちに今日からでもできる『環境保全』はたくさんあります。

例えば

- 川にごみを捨てない。
 - ごみは分別して出し、減量化にも心がける。
 - 資源のリサイクルをすすめる。
 - 省エネルギーに心がける。
 - 公共下水道が敷設されたら速やかに接続する。
 - 浄化槽の定期点検を決められたとおり行う。
 - 事業所からの排水にも十分気を付ける。
- 等々多くあります。そうした小さい積み重ねが『きれいな海蔵川→きれいな伊勢湾→きれいな世界の海』につながるのではないのでしょうか。

（海蔵地区市民センター）

編集後記

前号に引き続き「海蔵川」を特集してみました。

今回は、川の自然をテーマに、そこに生息する生きものから、水の汚染度合いなどを、実際に川に入り地域の子供の目を通して、調べてみました。

現状は、この地区を流れる川は「やや汚い」と、ここに住む生物が教えてくれました。この季節、海蔵川の本当の素顔をみる事ができます。

（広報部員一同）